

「脳卒中死亡率全国ワースト1からの脱却」を目指して 岩手県脳卒中予防県民会議の1年目の取組

平成26年度地域政策研究センター(地域提案型・後期)

課題名 : 「脳卒中に対する企業意識の変化が死亡率等へ与える影響について
～脳卒中予防運動の課題と予防活動価値指標の検討～」

研究代表者 : 看護学部 講師 松川久美子

課題提案者 : 岩手県脳卒中予防県民会議事務局 (岩手県保健福祉部健康国保課)

研究メンバー : 千葉小香枝 浅沼優子 (全国協会健康保険協会岩手支部)、佐藤朝則 (前岩手県保健福祉部健康保健課)、藤村史穂子、蘇武彩加(看護学部)

キーワード : 健康課題 働き盛り世代 生活習慣病予防 県民運動

▼研究の概要(目的)

岩手県は、平成26年7月に「岩手県脳卒中予防県民会議」を設置し、「脳卒中」死亡率ワースト1からの脱却」をスローガンに脳卒中予防県民運動を推進している。本研究では、1年目の県民運動の取組の現状と課題を明らかにする。(表1・図1)

▼研究の内容(方法)

時期 : 平成27年9月
対象 : 県民会議参加団体・機関 300ヶ所
方法 : 郵送法によるアンケート調査
内容 : ①参加団体の特徴
 ②脳卒中予防1年目の取組と課題

▼研究の成果(結果・考察)

1 186ヶ所から回答を得た(回答率62.0%)。三次産業と二次産業で9割を超えていた。県民会議を活用した県民運動は働き世代へのアプローチが可能である(図2)。

2 「脳卒中予防10か条」の項目の取組は、最も高い項目は「タバコ」でも30.0%であり次いで「高血圧」「肥満」の順であった。最も低いのは「飲酒」16.5%であった(図3)。

3 県民運動1年目の普及啓発の取組は、「脳卒中死亡率全国ワースト1」は30.4%、「脳卒中予防10か条」は17.5%、それらの「いずれも実施」が15.2%であった(図4)。

4 脳卒中予防に取組む場合の課題は、課題がある順に「マンパワー」「時間」「知識・技術の向上」「予算」「専門家の助言・協力」であった(図5)。

5 事業所規模が50人未満の事業所は、専門職による相談の機会が少ない(図6)。脳卒中予防のためには、誰もが必要な相談を受けられることが重要であり、産業保健や地域保健などの連携により地域内の資源が十分に活用されることが必要である。

▼おわりに

今回の調査をベースラインとして、県民会議の参加者が連携して今後一層の取組が必要である。調査にご協力いただいた岩手県脳卒中県民会議の皆様へ厚く御礼申し上げます。

表1 脳血管疾患年齢調整死亡率 H22

順位	男		女	
	都道府県	死亡率	都道府県	死亡率
1	03 岩手	70.1	03 岩手	37.1
2	02 青森	67.1	09 栃木	35.5
3	05 秋田	65.7	02 青森	34.0
4	09 栃木	62.8	04 宮城	33.9
5	04 宮城	61.8	07 福島	32.7
43	18 福井	42.8	47 沖縄	22.4
44	25 滋賀	42.8	34 広島	22.1
45	26 京都	39.6	27 大阪	21.5
46	29 奈良	39.3	29 奈良	20.7
47	37 香川	38.6	37 香川	20.6

政府統計e-Statより作成

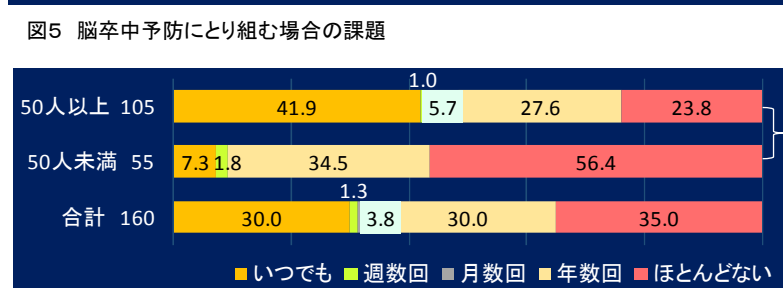
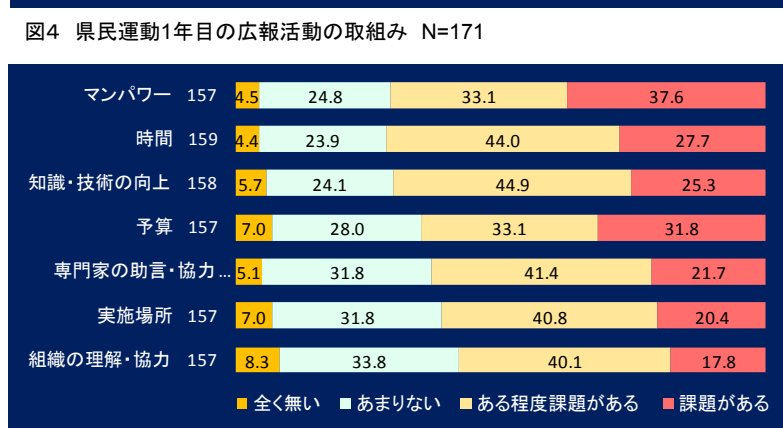
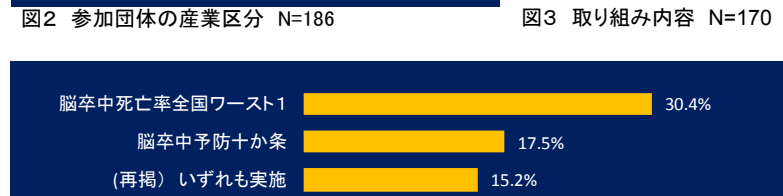
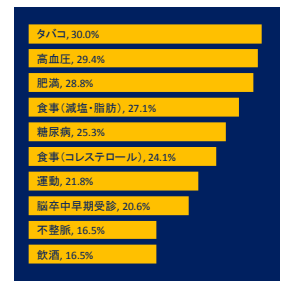
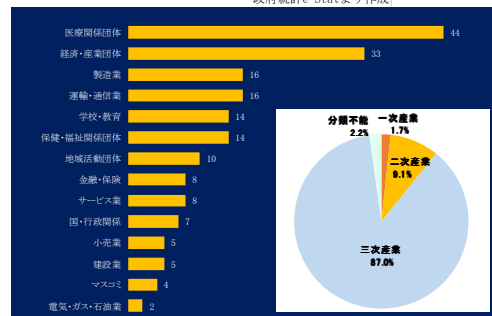
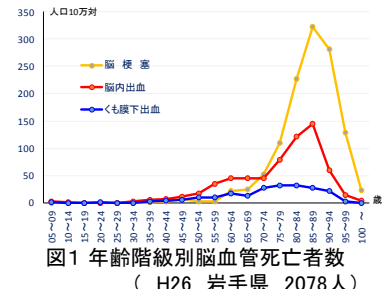


図6 事業所規模別の産業医・看護師・保健師等専門職による相談の機会の程度